

の力で世界はもっと一つになれる

パラリンピック競技大会へ出場するドイツパラ陸上選手団が本市で事前キャンプを行いました。新型コロナウイルス感染症を心配しながらありませんでしたが、受け入れまでに行った地元高校生と選手とのオンラインでの交流や、市内全小中学校でドイツの文化や言語について見識を深めることができました。この事前キャンプを通して得た諸外国への興味関心を高く、多文化共生を認め合いながら生きていく「共生」への思いを未来へ向けて築いていきます。



励会・練習見学会

励会に参加した生徒の中から、コロナ禍のため限られた生徒が参加した中、練習見学会が行われ、普段の穏やかな雰囲気の中、選手たちの姿を目の当たりにしました。



励会へ参加した全員で記念撮影



採火式

本市を含め全国から集められた火は、東京でパラリンピック発祥の地、イギリスのストーク・マンデビルで火をともし、東京 2020 パラリンピックの聖火となります。



採火を担当した島原特別支援学校の堀川 雅陽さん（左）



火打石と着火棒を使って火を起こしランタンへ移す様子

事前キャンプ開催までの軌跡

～共生社会の実現を目指して～



◎ H31.3 事前視察を実施

事前合宿招致に向け、ドイツパラリンピック委員会ペーターズヘッドコーチが市内スポーツ関連施設を視察

◎ R 2.2 事前キャンプ決定

ドイツ障害者スポーツ連盟と長崎県、本市の三者で覚書を締結



◎ R 2.5 ビデオレターによる交流

選手から子どもたち宛てのビデオレターが届き、御礼のビデオレターを市内中高校生陸上部員が参加し、制作



◎ R3.2 オンライン交流会

市内中高校生が市内のスポーツ・観光施設のバリアフリー状況を紹介



◎ R 3.7 学校給食でドイツ料理を提供



生徒たちも選手を応援

◎ R 3.8 島農生がおもてなし料理のレシピを開発



選手たちを料理で応援

より詳しい取り組み内容は
こちらから確認できます▶



スポーツの

8月14日～8月28日の間、東京2020パ
染症の影響で予定していた市民との交流は
の学校給食でドイツ料理を楽しむことで、
めることや障害があるないに関わらずお互



選手団激励

市内陸上部で活動している生徒やオンライン交流
加し、選手団激励会を開催しました。その後も小
ら一変し、気迫のこもったトップパラアスリート

